

和歌山県方言の語彙の研究「暴れん坊」

A Linguistic Geographical Study Of Some Dialectal Words Of Wakayama Prefecture ——'a rough fellow'

柏 原 卓

Suguru KASHIWABARA

2009年10月5日受理

1 はじめに

本稿は本紀要58集（2008年2月）所載の拙稿「和歌山県方言の『とても（非常に）』語彙の研究」と同様に、平成18（2006）年度に和歌山県教育委員会が実施した「わかやまことばの探検隊」事業の成果を活用して、和歌山県内においてかなりの変種を見せる「暴れん坊」の方言語彙を取り出して分布と語史を考察するものである。

すでに『わかやまことばの探検隊 報告書』（和歌山県教育委員会、平成19年3月、全127頁）が電子化されて、和歌山県教育委員会のホームページに公開されているので、参照いただければ幸いである。同報告書では調査結果を8地域（伊都、那賀、和歌山市、海草、有田、日高、西牟婁、東牟婁）の対照表としてまとめたが、本稿では資料が採集できた範囲で各地域の市町村レベルの結果を示しているところがある。ただ、調査できなかった地点も多く、該当語「暴れん坊」の方言訳回答が無い調査票も多くあったことをお許し願いたい。

2 「暴れん坊」方言の分布

この項では、採集できた「暴れん坊」の方言訳を類別して、使用する市町村を記す。

なお、本稿の市町村名は平成18年の合併以前の旧市町村によっている。たとえば旧田辺市（西牟婁地域）と合併した、旧龍神村（当時日高郡）、旧本宮町（当時東牟婁郡）なども旧のままである。ただし、旧南部町と旧南部川村の「みなべ町」は調査表で新旧混同したのもあったので合わせて「みなべ町」にした。しかし、たまたま本稿では旧龍神村、旧本宮町、みなべ町のデータが無かった。このような事情で、分布状況に「田辺市」と記したのは、あくまで平成18年合併以前の旧田辺市であることに注意していただきたい。

【分布状況】

●ヤンチャ類

[ヤンチャ] 橋本市、かつらぎ町、高野口町、打田町、桃山町、貴志川町、和歌山市、金屋町、日高町、川辺町、田辺市、新宮市、新宮～太地

[ヤンチャクソ] 橋本市、かつらぎ町

[ヤンチャクレ] 橋本市、高野町、桃山町、貴志川町、和歌山市、海南市、金屋町、吉備町、田辺市、新宮市

[チャニチャクレ] 海南市

[ヤンチャタレ] 海南市

[ヤンチャポーズ] 橋本市、貴志川町、中津村

[ヤンチャボシ] 橋本市、かつらぎ町、高野町、粉河町、和歌山市、海南市、野上町、有田市、金屋町、日高町、那智勝浦町

[センチャボシ] 串本町、那智勝浦町

[ヤンチャモン] 橋本市、和歌山市、海南市

●ドモナラン類

[ドモナラン] 那智勝浦町

[ドモナランヤッチャ] 橋本市

[ドモナラ] 和歌山市、有田市、金屋町、日高町

[ドモナリ] 日高町

[ドムナラ] 海南市

[ドムナラン] 勝浦～熊野川

●ヤクザ類

[ヤクザ] 那智勝浦～熊野川

[ヤクザボシ] かつらぎ町

[ヤクダボシ] 那智勝浦～熊野川

[ヤクザモノ] 金屋町

[ヤクザモン] 新宮～太地

●ゴン類

[ゴントクレ] 那智勝浦町

[ゴントモン] かつらぎ町

[ゴントレ] 田辺市

●キカンボ類

[キカンボ] 勝浦～熊野川

[キカンボー] 田辺市

●アバレ類

[アバレ] 岩出町

[アバレンボー] 和歌山市、海南市、日高町、那智勝浦町、太地、新宮市、熊野川町、本宮町

●その他

[アノガキラ] 橋本市

[アホ] 串本町
 [オッチョコチョイ] 田辺市
 [ケンカタレ] 和歌山市
 [ゴータレボシ] 広川町
 [ハシカイ] 新宮～太地
 [ボーリョクテキ] 那智勝浦
 [ヤカラ] 橋本市、かつらぎ町
 [ヤケモン] 田辺市
 [ヤンガンモノ] 日高町
 [ヤンキー] 新宮市
 [ランボーナヒト] 御坊市
 [ランボーモノ] 新宮市
 [ワルサ] 橋本市
 [ワンパク] 新宮市

【分布の特徴】

- ①主要な語としては「ヤンチャ類」「ドモナラン類」「ヤクザ類」があり、少しずつ変化しながら全県に分布する。共通語と同じ「アバレンポー」も全県に分布する。
- ②紀北に「ヤカラ」が、紀南に「ゴン類」「キカンボ類」がある。
- ③その他に上げた「アホ」「ヤンキー」「ボーリョクテキ」「ランボーナヒト」は若年層の回答である。「アノガキラ」は「あの餓鬼ら」と見下げる表現である。「オッチョコチョイ」は調査票の目移りによる誤記入の恐れもあるがしばらく置く。

上記の「分布の特徴」をもう少し解釈してみよう。まず①について、「ヤンチャ類」では「ヤンチャ」「ヤンチャクレ」「ヤンチャボシ」が主である。元来は「ヤンチャ」に語尾の「クレ」「ボシ（法師）」が意味を添えていたであろうが、それぞれ広く分布しているところをみると三者はおおむね混用されていると思われる。そして「ヤンチャクレ」「ヤンチャボシ」からさらに一部地域で、語尾の変更や音変化による幾つかの変種が現れた。「やんちゃ糞」（橋本市、かつらぎ町）、「やんちゃ垂れ」（海南市）、「やんちゃ坊主」（橋本市、貴志川町、中津村）、「やんちゃ者」（橋本市、和歌山市、海南市）、「チャニチャクレ」（海南市）、「センチャボシ」（串本町、那智勝浦町）である。それらの変化は「ヤンチャクレ→ヤンチャクソ→ヤンチャタレ」（語尾変更）、「ヤンチャクレ→チャニチャクレ」（音変化）および「ヤンチャボシ→ヤンチャポーズ」（語尾変更）、「ヤンチャボシ→センチャボシ」（音変化）と解されよう。「ドモナラン類」では、否定辞「ン」を保つ「ドモ（ム）ナラン」が那智勝浦町あたりの紀南にあり、否定辞「ン」を省略した「ドモ（ム）ナラ」「ドモナリ」が日高町以北に分布する（橋本市の「ドモナランヤツチャ」を除く）。

「ヤクザ類」は「ヤンチャ類」「ドモナラン類」に比して、県内に満遍なく分布しているのではなく北部か

ら南部にかけてややとびとびに分布する。この分布にいたる経緯や各語類の新古関係は断言できない。

「アバレ類」は共通語と同じ「アバレンポー」が全県に分布し、那賀郡岩出町のみ「アバレ」が見られた。

次に②について、同じ発想の語彙が紀北の「ヤカラ」に対して紀南の「ゴン類」「キカンボ類」という姿で分布していると言える。と言うのは「ヤカラ」の意味は「子供などのわがまま」であり、「ゴン類」（ゴンタ）にも同じ意味があり、「キカンボ」は「聞かぬ坊」で、言うことを聞かない点が共通だからである。これも分布の経緯や新古関係は何とも言えない。

県内の分布だけから言えるのはこの程度なので、さらに語史資料や全国分布を参照して考察を広げていく。その際、「ヤンチャ類」「ドモナラン類」「ヤクザ類」「ゴン類」と「その他」は「ヤカラ」に一応しぼることにする。

3 語史と全国分布・昭和初期の状態・県内分布データの解釈

語を考察するにあたって、まず全国分布と語史を『日本方言大辞典』（小学館。以下『日方大』と略す）・『日本国語大辞典』（第2版・小学館。以下『日国大』と略す）や先行研究を参考に概観し、次に昭和8年の『和歌山県方言』の記載から昭和初期の状態を検討し、最後にこれらの知見に立って県内分布データを解釈する、という順に述べて行くこととする。

3-1 ヤンチャ類

3-1-1 全国分布と語史

「ヤンチャ」は共通語にもある名詞、形容動詞ではあるが、多義語であるので、どれに該当するかを考える必要がある。

『日方大』の「やんちゃ」の項では、

- ①むちゃ。②ちゃめつけの多い人。③わがまま。
- ④不作法なさま。⑤やば。⑥おうちゃく。また、おうちゃく者。⑦乱暴。⑧女のはでで素行の悪いさま。⑨すぐ壊れそうなさま。⑩矮小（わいしょう）なさま。馬などに言う。⑪粗末。⑫汚らしいこと。⑬みだりに。

のように意味を分けていて、このうち「⑦乱暴」が該当するが、分布に北海道「やんちゃ者」、富山県、石川県、岐阜県恵那郡、三重県、高知県を上げるのみで、和歌山は無い。

しかし「やんちゃくれ」の項に、

やんちゃくれ①わんぱく者。京都市、和歌山県《やんちゃぼし》和歌山県 ②気ままな者《やんちゃたれ》三重県阿山郡

として、「ヤンチャクレ」「ヤンチャボシ」の語形を「わんぱく者」の意味で上げている（依拠文献は後引の『和歌山県方言』）。

『日国大』では、

小児が、または小児のようにわがまま勝手な振る舞いをする。だだをこねて無理をいうこと。またそのさまやその人。やんちゃん。やにちゃ。*浮世草子・沖津白波(1702)「幼心のわやくさに悪(いや)じゃ悪じゃとやんちゃいふ」*浄瑠璃・丹波与作待夜の小室節(1707頃)「お姫さまくはんとうへいく事は、いやじゃいやじゃとやんちゃばかり御意なされ」…

のような意味記述と近世以降の用例を上げている。[方言]の項は『日方大』と共通である。これを参照すれば「だだをこねて無理をいう」「小児のようにわがまま勝手な振る舞いをする」意味から、調査資料の「暴れん坊」つまり「他人の忠告を聞かずわがまま勝手に乱暴な振る舞いをする人」「乱暴者」ないし「腕白者」の意味が派生したことが首肯できる。

3-1-2 昭和初期の状態

『和歌山県方言』(1933)では「ヤンチャ」を含む、以下の項目が見えている。

ヤンチャクレ | 名 | 腕白者 | 市海有西

ヤンチャボシ | 名 | 腕白者 | 海那伊有日西東

ヤンチャモン | 名 | 腕白者 | 市海那有日西東

(旧8郡市の略称北から、伊=伊都郡、那=那賀郡、市=和歌山市、海=海草郡、有=有田郡、日=日高郡、西=西牟婁郡、東=東牟婁郡)

のように、すべての項目で「腕白者」という訳を記している。今回調査語の「暴れん坊」とは意味に小異があるが、「乱暴」という共通性は認められる。「ヤンチャボシ」「ヤンチャモン」が県下8郡市中7郡市に広く分布するのに対し、「ヤンチャクレ」が4郡市と劣勢である。

3-1-3 県内分布データの考察

「わかやまことばの探検隊」(2006)調査の県内分布は前述したが、『和歌山県方言』の8郡市にまとめ、比較のため『和歌山県方言』の対応項目を併記して示すと、次のようになる。

[ヤンチャ] 伊都、那賀、和歌山市、有田、日高、西牟婁、東牟婁

[ヤンチャクソ] 伊都

[ヤンチャクレ] 伊都、那賀、和歌山市、海草、有田、西牟婁、東牟婁

(県方言) ヤンチャクレ | 市海有西

[チャニチャクレ] 海草

[ヤンチャタレ] 海草

[ヤンチャポーズ] 伊都、那賀、日高

[ヤンチャボシ] 伊都、那賀、和歌山市、海草、有田、日高、東牟婁

(県方言) ヤンチャボシ | 海那伊有日西東

[センチャボシ] 東牟婁

[ヤンチャモン] 伊都、和歌山市、海草

(県方言) ヤンチャモン | 市海那有日西東

一見して1933年から2006年の73年間に、①方言語形が増加し、②同じ語の分布に消長が見られるのが特徴である。

まず①方言語形増加の過程については、「ヤンチャクレ→ヤンチャクソ→ヤンチャタレ」(語尾変更)、「ヤンチャクレ→チャニチャクレ」(音変化)および「ヤンチャボシ→ヤンチャポーズ」(語尾変更)、「ヤンチャボシ→センチャボシ」(音変化)と考えて既に記した。また「ヤンチャ」も増加したが、『和歌山県方言』では共通語と認定して省いたのかもしれない。音変化の「チャニチャクレ」は奇異な感があるが、前稿「とても(非常に)」語彙の研究でも、「やにこう」を西牟婁(上富田)で「チャニクソ」と言う例があった。

次に②分布の消長は、郡市数で「ヤンチャクレ」4→7、「ヤンチャボシ」7→7、「ヤンチャモン」7→3となるが、どちらにも調査精度の問題が含まれそうなので、参考程度にすべきか。

以上から大きな流れをまとめると、1700年代初頭までに京阪地方で「ヤンチャ」が発生して各地に意味を変えながら広がった(『日方大』参照)。和歌山県域には「(勝手な振る舞いをする)乱暴」の側面が伝わり、語形も派生して1933年には「ヤンチャクレ」「ヤンチャボシ」「ヤンチャモン」が「腕白者」と記述され、2006年には「暴れん坊」の訳語としてその3語のほか「ヤンチャ」をはじめ多様な変化語形が記録された。

3-2 ドモナラン類

3-2-1 全国分布と語史

「どうにもならぬ」から「どうにもならぬ者」の意で「腕白者」などを指すようになった。『日国大』で語史を探せなかったため、『日方大』で現代の全国分布を見してみる。

『日方大』では、

どもならず(「どうにもならない者」の意) わんぱく小僧。新潟県北魚沼郡、福井県大飯郡、滋賀県蒲生郡、京都府、兵庫県《どーならず》京都府竹野郡《どんならず》京都府《どもならやっこ(一奴)》和歌山県日高郡《どもなら》和歌山県《どむなら》和歌山県《どむならんぼー(一坊)》三重県志摩郡

と記す。「ドモ(一、ン)ナラズ」(京都府から北方と東西方)、「ドモ(ム)ナラン」(三重県)、「ドモ(ム)ナラ」(和歌山県)の3類が見られる。

まず副詞「ドモ」の語形は、「ナラズ」「ナラン」を修飾して「どうにも仕方がない」の意味のときは、「ドモ」でなく「ドモ」と短いようである。牧村史陽『大阪ことば事典』に「ドモナラン どうにもならぬ。どうにも仕方がない。困るの意。ドモナラヌ→ドモナラ

ン。さらにドムナラン→ドンナラン。」と見える。

次に語句全体を見ると、第1類「ドモナラズ」は名詞相当で、由来は「動詞+否定助動詞ズ(連用形または終止形)」が名詞化した語法である。古く満濟准后日記(1428)に「不開の門(あけずのもの)」のように名詞化して助詞「の」に接続した類例がある。

第2類「ドムナラン坊」では、「ン」が連体形か終止形かの問題はさておき、語句の由来の古さを考えるには、「キカンポー(聞かん坊)」「トーセンポー(通せん坊)」など同じ文法構造の語句の古さが参考になるであろう。『日国大』には明治以降の例しか出ていない。ただし文献には出なくても由来はもう少しさかのぼるかも知れない。

第3類は、単に第2類の「ン」が脱落しただけと見ることでもできようが、言語地理学の解釈法に従い、「ナラズ」と「ナラン」の両方に接した地域(和歌山県)で中間的な解決として「ズ」「ン」とも脱落させたと考えてはどうであろうか。

3-2-2 昭和初期の状態

『和歌山県方言』(1933)では次のように出ている。
ドムナラ ドムナラでかなはない | 名 | 腕白者 | 市海那有

ドモナラ | 名 | 腕白者 | 市海有日西東

ドモナラヤツコ | 名 | 腕白者 | 日

参考

ドムナラン | 述否 | どうも仕方がない | 市海那伊有

ドモナラン | 述否 | どうも仕方がない | 市海那伊西東

このように名詞の「腕白者」のときには「ン」が脱落し、述語では脱落しないという区別があったことが分かる。

3-2-3 県内分布データの考察

前項同様、「わかやまことばの探検隊」(2006)調査の県内分布を8郡市にまとめ、『和歌山県方言』の対応項目を併記して示すと、次のようになる。

[ドモナラン] 東牟婁

[ドモナランヤッチャ] 伊都

[ドモナラ] 和歌山市、有田、日高

(県方言) ドモナラ | 市海有日西東

(県方言) ドモナラヤツコ | 日

[ドモナリ] 日高

[ドムナラ] 海草

(県方言) ドムナラ | 市海那有

[ドムナラン] 東牟婁

この項でも1933年から2006年の73年間に変化が見られる。①使用郡市の減少「ドモナラ」6→3、「ドムナラ」4→1、②「ドモナラン」の増加、③「ドモナラヤツコ」の消滅、④「ドモナリ」の発生である。

2006年調査では「ドモナラ」「ドムナラ」が出て来に

くくなり、「ドモナランヤッチャ(どもならん奴や)」「ドモナラン」「ドムナラン」と答える例が現れている。これは「腕白者」ではなく「暴れん坊」の方言訳を求めたため、適切な名詞を答えにくかったという事情もあるかも知れない。

以上をまとめて解釈してみる。近畿で広く「どうも仕方がない、困る」を「ドモナラン」と言う中で、京都から「腕白者」を「ドモナラズ」という語が周囲に広がったが、南方には広がらなかった。和歌山では、「腕白者」は「ドモナラズ」と「ドモナラン」の衝突を避けて「ズ」「ン」とも脱落させ「ドモナラ」とし、「どうも仕方がない」の方は「ドモナラン」のままとする、という使い分けが昭和初期に確立したが、2006年には「ドモナラ」が出にくくなってきた。

3-3 ヤクザ類

3-3-1 全国分布と語史

共通語ではヤクザは侠客の意味であるが、これも多義語なので、その中での位置を考えていくことにする。『日方大』では

やくざ ①役に立たないこと。また、その人。能なし。厄介者。②怠惰な者。無精者。③粗悪。また、粗悪品。がらくた。④下品。下劣。⑤脆弱(ぜいじゃく)なこと。また、弱虫。意気地なし。⑥放蕩。放蕩者。道楽者。⑦乱暴。また、乱暴者。⑧いたずら。わんぱく。また、わんぱく者。⑨酔漢。⑩内気。小心。⑪そこつ者。

のように意味を分けていて⑦⑧に該当するが、その分布は「⑦乱暴。また、乱暴者」が「三重県南牟婁郡、和歌山県日高郡《やくざぼし》和歌山県」、⑧「いたずら。わんぱく。また、わんぱく者」が「三重県南牟婁郡、和歌山県《やくだもん》和歌山県西牟婁郡」と記している。「和歌山県」とあるものの依拠文献は『和歌山県方言』である。

一見して分かるように、和歌山県と三重県南部に限られている。

『日国大』では語源から説き起こして

やくざ [名] (カブ賭博の一種である三枚ガルトで、八(や)九(く)三(さ)の札がくると、ブタのうちでも最悪の手になるところから) ①(形動) 一般に、物事が悪いこと。役に立たないこと。つまらないこと。粗末なこと。生活の態度がまともでないこと。また、そのものやそのさま。…②博打打や無職渡世の遊び人。また、暴力団員など、正業につかず、法に背くなどして生活の資を得ている者の総称。無頼漢。ならずもの。やくざもの。…

のような意味記述と近世以降の用例を上げている。

これらを総合してみると、「役に立たない、つまらない」を原義として多くの語義が派生したことが分かる。和歌山県や三重県南部のばあい、「わんぱく者」「暴れ

ん坊」のする事を、「役に立たない、つまらない」事であると冷めた目で表現していると解される。

3-3-2 昭和初期の状態

『和歌山県方言』（1933）では次のように出ている。

ヤクザ | 名 | 腕白 | 有日西

ヤクザボシ | 名 | 乱暴者 | 市海那伊有西東

ヤクダモン | 名 | 腕白者 | 西

このように、「ヤクザ」「ヤクダモン」は「腕白、腕白者」の意で分布は少なく有田以南にかたより、「ヤクザボシ」は「乱暴者」の意で広く分布している。両者の意味の差はどれほどなのか。腕白者（ヤクザ、ヤクダモン）の方が多少可愛げがあり、乱暴者（ヤクザボシ）は迷惑で困るというような、迷惑感情の程度差がありそうだが、詳しくは分からない。

3-3-3 県内分布データの考察

前稿までと同様、「わかやまことばの探検隊」（2006）調査の県内分布と、『和歌山県方言』（1933）の対応項目を併記して示す。

[ヤクザ] 東牟婁

(県方言) ヤクザ | 有日西

[ヤクザボシ] 伊都

[ヤクダボシ] 東牟婁

(県方言) ヤクザボシ | 市海那伊有西東

[ヤクザモノ] 有田

[ヤクダモン] 東牟婁

(県方言) ヤクダモン | 西

目立つのは「ヤクザボシ」が1933年には県下に広く分布していたのに2006調査では一部にしか出なかった点である。

以上から解釈してみる。「ヤクザ」は「役に立たない。つまらない」の原義から、各地に広がる間に『日方大』の11種の意味分類に見られるように多様な意味変化があった。和歌山県や三重県南部では、「腕白」の意味になった。さらに「ボシ（法師）」で意味を強めた「ヤクザボシ」は「乱暴者」の意味を表すのに用いられた。

3-4 ゴン類

3-4-1 全国分布と語史

腕白者や乱暴者をゴンタとかゴンゾーと言うのが西日本各地に見られる（『日方大』「ごんぞー」）。語源については浄瑠璃「義経千本桜」中の人物「いがみの権太」に基づくとの説（『日国大』、『大阪ことば事典』）もあるが、筆者はかつて「強情」説を述べた（注1）。『日方大』では、「ごんぞー」の項に「ごんた」も併せて載せている。

ごんぞー【権蔵】… [二] ①無頼漢。ならず者。盗人。②乱暴者。むちゃな者。③おうちゃく者。④すね者。⑤わんぱく者。悪童。⑥子供が無理を言って

すねること。また、その子。だだっ子。⑦強情。⑧意地悪。…

と意味を分けていて⑤が該当するが、その分布は「(ごんぞう) 島根県《ごんぞ》 島根県隠岐島《ごんた》 三重県名賀郡、滋賀県彦根、京都府、大阪市、兵庫県、奈良県南葛城郡、吉野郡、和歌山県伊都郡、島根県、徳島県、香川県、愛媛県《ごんたく》 京都府、愛媛県弓削島《ごんたくれ》 兵庫県神戸市」と多数を上げている。

ここから、「ゴンタ類」は近畿四国に分布していることが分かる。

なお、筆者は「強情」説なので参考に「ゴンジャ」も引いておこう。

『日方大』では

ごんじゃ ①子供のわがまま、小言や苦情。②苦情を言う子供。③分からず屋。④強情。⑤酔漢。⑥執拗な人。⑦田舎者。⑧汚いさま。…

と意味記述している。「ごんた」「ごんぞう」との意味の共通性が強く感じられると考える。

3-4-2 昭和初期の状態

『和歌山県方言』（1933）では次のように出ている。

ゴンタ | 名 | 駄々をこねる者 | 市海

ゴンタ | 名 | 頑固者、腕白者 | 伊

ゴンジャ | 名 | 強情 | 市

ゴンジャ | 駄々をこねること | 海那

「ゴンジャ」は「駄々をこねる」の意味が「ゴンタ」と共通である。

3-4-3 県内分布データの考察

前項同様、『和歌山県方言』と併記してみる。

(県方言) ゴンタ | 市海

(県方言) ゴンタ | 伊

[ゴンタクレ] 東牟婁

[ゴンタモン] 伊都

[ゴンタレ] 西牟婁

2006では「ゴンタ」だけでなく語尾が付くようになった。「ゴンタレ」は切れ目が他と違い「ゴン+タレ」と考えられる。（注2）

以上から解釈してみる。各地に「乱暴者、むちゃな者」等の意味の「ゴンゾー」「ゴンタ」があり、「わがまま、苦情を言う、強情」等の意味の「ゴンジャ」があるのを比較して、「強情」から「ゴン」を核にしつつ、まずは音が近く人名に託した「ゴンゾー」ができたと考えてよかろう。次に類推で人名に託した「ゴンタ」ができたであろう。それが19世紀初頭までのこと。和歌山方言には、「強情」の系譜の「ゴンジャ」も変化をとげた「ゴンタ」も伝わったことが分かるのが『和歌山県方言』（1933）である。

3-5 ヤカラ

3-5-1 全国分布と語史

「暴れん坊」の方言訳で「ヤカラ」が登場した。そもそもどんな意味の語であろうか。

『日国大』では

やから〔名〕不平や苦情。また不平を言ったり口論をしかける者。やからもの。*日葡辞書(1603-04) Yacara またはヤカラモノ(小心で、なんでもないことに争いをおこす人)…

と記述し、日葡辞書を上げて中世から有った語であることが分かる。

『日方大』では

やから ①子供などのわがまま。やんちゃ。だだ。②むずかる子供。③怒ること。④短気。⑤苦情。小言。⑥不平を言う人。⑦乱暴者。⑧暴言者。…

のように意味を記述している。①⑦等が該当するが、分布は「①新潟県、三重県、兵庫県神戸市、香川県小豆島、長崎県五島、熊本県球磨郡、天草郡、大分県、宮崎県東諸県郡、都城、鹿児島県、喜界島」「⑦鹿児島県喜界島」である。「やから」の項で同音の植物名以外には和歌山県は載っていない。方言文献に出てこないようである。

3-5-2 昭和初期の状態

前項で記したとおりで『和歌山県方言』にも「ヤカラ」は見えない。

3-5-3 県内分布データの考察

2006年調査のデータでは、
[ヤカラ] 橋本市、かつらぎ町

で伊都郡のみである。これはたまたま方言訳としては回答されなかっただけで他にもある模様である。(注3)

以上を解釈すると、日葡辞書に搭載されて京都でも用いられたと考えられる「ヤカラ」は近畿や四国圏にも分布しているが、昭和初期の方言文献には漏れている。県内に入っていなかったのか、採集漏れかは断言できない。しかし2006年調査で伊都郡に見えており、県内で確かに使われていることが分かる。

注

- 1 拙稿(2001.4) p.399-404
- 2 強情(がうじゃう)の「う」は二つとも喉内鼻音韻尾〔ng〕で、ガンジョー(頑丈)もこれに由来すると言われている。強情の意味の「ゴンジョ」「ゴンジャ」も同じである。いっぽうで「ゴン」だけでも「強情」の意味をにないつつ、その性質を人名にしたのが「ゴンゾー(権蔵)」「ゴンタ(権太)」であると考え。注1の拙稿参照。
- 3 方言紹介のインターネットサイトでいくつか見られる。動詞化した「やかる」(苦情を言う)を紹介しているサイトもあった。

参考文献

- 尚学図書編『日本方言大辞典』小学館
編集委員編『日本国語大辞典 第2版』小学館
和歌山県教育委員会『わかやまことばの探検隊 報告書』2007.3
吉川静雄編『和歌山県方言』(和歌山県女子師範学校・和歌山県立日方高等女学校 1933)
佐藤喜代治『日本の漢語』(角川小辞典 1979)
牧村史陽『大阪ことば事典』(講談社学術文庫 1984)
柏原卓『『和歌山県方言』の漢語』(迫野虔徳編『筑紫語学論叢』風間書房 2001.4)